

〔研究員の視点〕

英国鉄道におけるコロナ禍に対応した新たな定期券の販売

交通経済研究所主幹研究員 小役丸幸子

※本記事は、『交通新聞』（2021年9月30日付）に執筆したものを転載いたしました

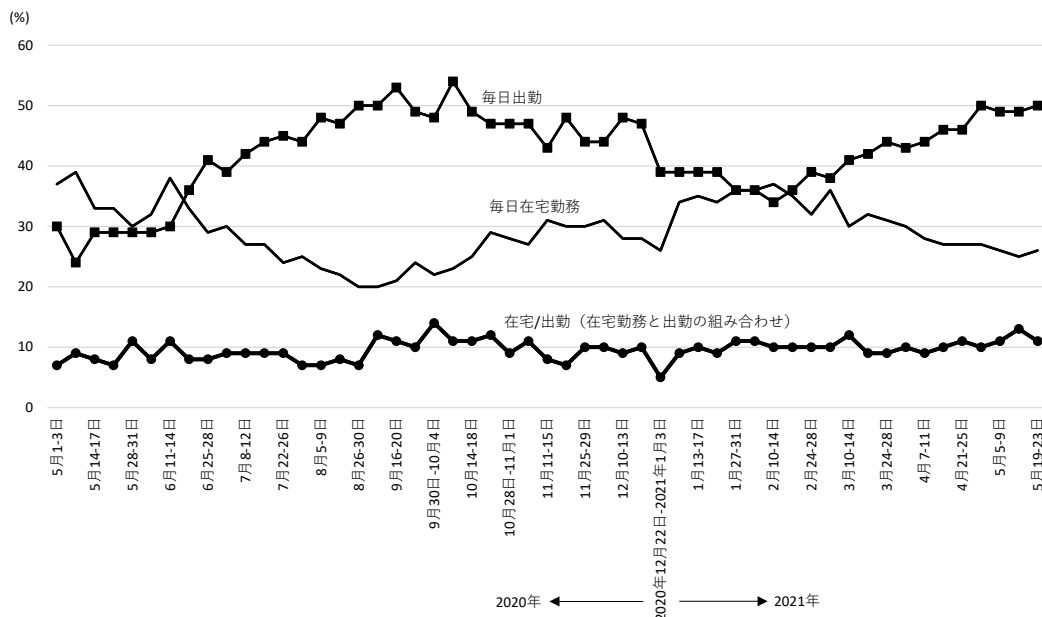
新型コロナウイルスの影響により、英国においても在宅勤務が増え、週5日の伝統的な通勤スタイルが崩れ始めている。そのため、英国鉄道では、1か月のうち数回しか出勤しない人を対象とした新たな定期券の開発を急務としてきた。その後、導入が発表された新定期券はFlexi（フレキシ）定期券と呼ばれ、本年（2021年）6月から発売が開始された。

本稿では、英国の在宅勤務の状況と在宅勤務が鉄道に与えた影響、そして、新たに登場したFlexi定期券について取り上げる。

在宅勤務の状況

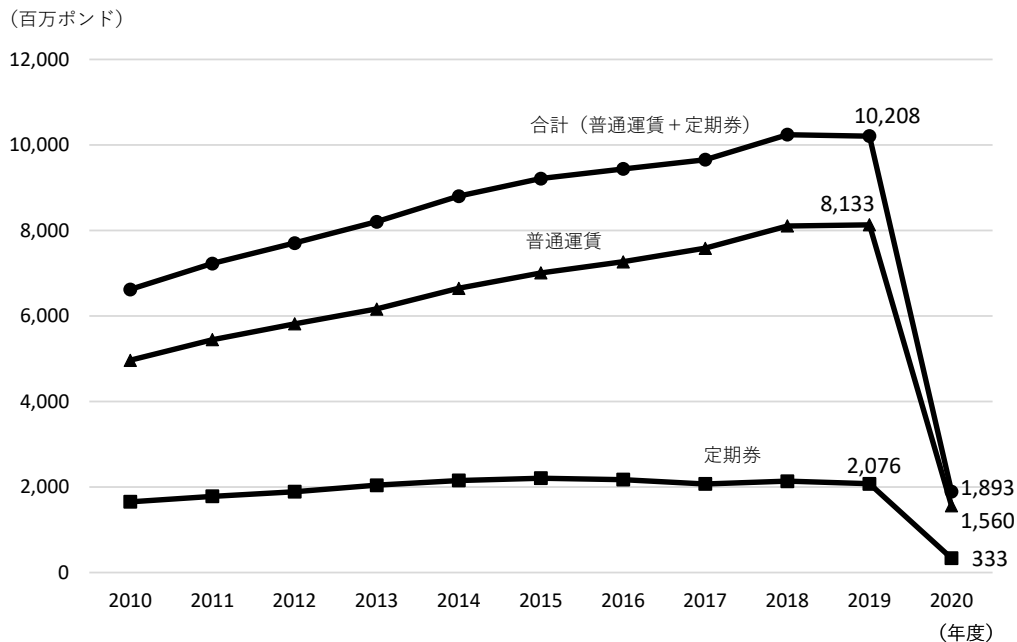
図1は、英国における2020年の5月から2021年5月までの在宅勤務の動きを示したものである。グラフを見ると、「在宅/出勤」（在宅勤務と出勤の組み合わせ）がほぼ横ばいであるのに対し、「毎日出勤」と「毎日常宅勤務」のグラフは波打つように二度交差している。これはロックダウン（注）のたびに通勤を厳しく制限し、在宅勤務への切り替えを促したためである。直近の2021年5月は三度目のロックダウンを緩め始めた時期であり、それぞれの勤務スタイル

図1 英国における在宅勤務の状況



出典) Office for National Statistics, Business and individual attitudes towards the future of homeworking, UK, 14 June 2021

図2 英国鉄道の運賃収入の推移



出典) Office of Rail and Road, Passenger revenue by ticket type

ルの割合は、「毎日出勤」が全体の50%、「毎日在宅勤務」はその半分の25%、「在宅/出勤」が10%程度となっている。

(注) 英国のロックダウン(都市封鎖)は2020年3月から実施を繰り返し、同年11月には二度目の、そして翌年の2021年1月には(ロンドンを含む一部エリアは2020年12月下旬から)三度目に突入した。三度目のロックダウンは段階的に緩められていったものの、全面解除は7月まで待たなければならなかった。

次いで、図2は英国鉄道の運賃収入の推移を示したものである。2019年度までは、普通運賃の収入は増大し、定期券収入は横ばい状態が続いていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により鉄道利用者が激減し、運賃収入は大きく落ち込んだ。定期券収入については、2019年度の20億7,600万ポンド(約3,143億円)から2020年度は3億3,300万ポンド(約

504億円)へと84%減少した。また、普通運賃の収入についても、2019年度の81億3,300万ポンド(約1兆2,313億)から2020年度は15億6,000万ポンド(約2,361億円)へ80.8%減少している。

新たな定期券

コロナ禍で在宅勤務が定着し、通勤スタイルに変化が生じ始めているのを見て、英国運輸省は2021年6月21日、新たな定期券の発売を発表した。Flexi定期券という新定期券は、週に2日程度通勤する人を対象として想定し、28日間(4週間)のうち8日間について自由な利用を認めるというものである。なお、そうした効力の複雑さから、この定期券はスマートカードのみの発行となっている。

2021年6月28日からサービスが始まったFlexi定期券は、これまでの1か月定期券よりも5割程度安く、通勤の日数が減った人にとっ

ては大幅な通勤費の節約につながる。ただし、Flexi 定期券の利用にあたっては注意も必要である。従来の1か月定期券がおおむね14～15日程度の利用で元が取れるのに対し、Flexi 定期券は一見お得に見えるが、利用可能日数からは割高であり、要するにきわめて限られたニーズに対応した商品であると言える。したがって、28日間に9日間以上利用しなければならなくなった場合や通勤期間が28日間を超えてしまうような場合など、通常の定期券等を購入した方が得になる場合も出てくる。

利用者のそうした悩みを解決しようと、鉄道事業者団体（Rail Delivery Group）ではウェブサイトを通じて自分に最も合う定期券が見つかるサービスを提供している。具体的には、National Rail Enquiries内のSeason Ticket Calculatorというサイトで利用経路や利用日数、利用期間を入力すると、購入可能な複数の商品とそれぞれの1日あたりの運賃が表示され、利用者はどれが最も適切かを知ることができる。

英国鉄道の新たな方向性を示した Flexi 定期券

最後に、この Flexi 定期券と英国鉄道の今後の方向性との関係についても説明を加えておきたい。

現在、英国では、1994年以來となる大改革に向けて、大きく動き始めている。今回の改革をリードする英国運輸省は、2021年5月、これまでの上下分離やフランチャイズ制の見直しを内容とする報告書を取りまとめ、従来の民営化方針に修正を加え、公的な組織による鉄道運

営への転換を打ち出した。

この報告書では、1994年の鉄道改革に対し一定の評価を与える一方で、上下分離による組織の非効率やフランチャイズ制が利用者利便の向上に必ずしもつながらなかった点などについて、厳しい評価を下している。また、運賃についても、制度が複雑で利用しづらい点を指摘し、改善を求めている。

こうして、英国の鉄道は公的色彩を強める方向への回帰を選択し、そのための組織として Great British Railways (GBR) が設立されることとなった。公共企業体である GBR は、政府の鉄道政策を踏まえ、インフラの所有・維持管理を行い、運賃や時刻表の設定などを管轄する。

GBR は発足後の主要な取り組みとして運賃の見直しを掲げている。その柱のひとつとして Flexi 定期券はつくられた。今後、その後を追う新商品、新サービスが次々と生まれてくることになるが、新しい通勤スタイルに対応した Flexi 定期券は、新生 GBR の第一歩を飾るにふさわしい商品と言えよう。とはいえ、その時代的な意義はともかく、新定期券には従来からのわかりづらさが依然として残っている。利用者に対し、Flexi 定期券がどうお得なのかを伝えきれていないのである。こうした点を解消し、利用者が求める使いやすい制度や商品の提供に努めていけば、英国鉄道の新たな方向性を支持する声は大きなものになっていくであろうし、Flexi 定期券もコロナ後の社会に根付いていくことになるのではないだろうか。